

P_58 - with global researchers - 海外出身研究者への研究活動支援



吉岡佐知子 神谷俊郎 佐々木結 大澤由実 京都大学 学術研究支援室
KURA

Our final destination “海外出身研究者の来日促進と定着”

そのためには… ⇒ 中長期にわたって日本で研究活動を続けてもらえるような
良好な研究環境を提供したい！

そこでまず



海外からの研究者受け入れにあたって日本の研究機関の留意点や改善点を把握するため、学内の海外出身研究者に日本の研究機関に来てみて不便だった点/苦勞する点をきいてみました

実録！私は見た！外国から来るとここがたいへん日本の研究機関

Case1 有期雇用 A特定講師

よく利用するサイト：KURAサイトは見る
学内情報の入手方法：メールが唯一の情報源

- ・大学の外国人研究者受け入れ体制に関する希望
✎「採用当初のブリーフィングがほしい。“特定”で、複数部局兼務、実質的に所属がない場合、情報源がメール以外になく、完全に孤立している」

URA所感：新任研修のようなものが日本人研究者にはあるのに（事務談）外国人研究者にはない。事務の現場担当者も外国人教員にはいちいち説明しないとけないという印象を持ってしまいそうで、事務・外国人教員の双方にとって望ましくない。

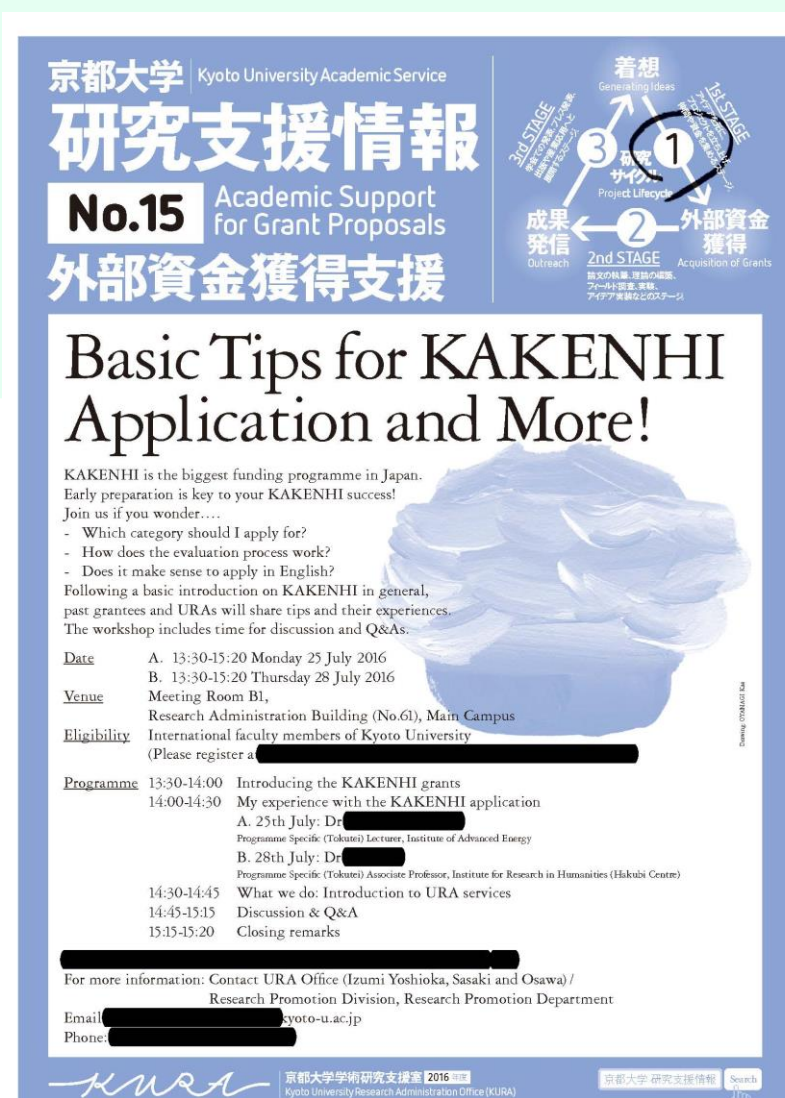
- ・JSPS科研費の申請で直面した問題
✎「かなり日本固有のスタイルのため、前提条件がまったくわからない。予算の記載方法など、申請には3-4週間、かなりの準備が必要」

- ・URA支援への希望
✎「9月説明会では遅すぎる。この申請を逃すと1年間無駄にしてしまう。年度が明けたら早めに実施してほしい」

そこでKURAでは

JSPS科研費申請英語説明会を開催

- ・各分野の採択経験者の経験談を紹介
- ・英文申請の採択率など現実的なデータを紹介
- ・支援をうけつける窓口を設置



Case2 専任教員 B准教授

附置研究所に所属。担当講義あり。
学内情報の入手方法：URA、研究室秘書からの情報かメール。

- ・事務連絡等における言語面での不便
✎「事務メールが日本語ばかりで、それが自分に関係するメールなのか返信すべきなのかどうかもわからない。題だけでも英語で発信してくれれば周囲の日本人スタッフに内容を確認できるのに」

- ・研究費の申請で直面した問題
✎「厳密に言うとJSPSの分科細目が今も自分の研究分野にはしっくりきていない。ちょうどよい分類がなされていない」「必ずしも研究事業でポストドクを雇用するわけではない点は他国とは違うと感じた」

URA所感：日本の研究費申請に慣れていない研究者には我々が体感や経験知で会得している非言語の感覚がまったく見えない。日本では実績がないのにいきなり科研費・基盤Aに申請してしまう、『研究分担者』と『協力者』を混同して申請してしまう等。

- ・URA支援への希望
✎「英訳のない申請書に英訳コメントをつけてほしい」「研究事業申請の学内メ切が早いときはいち早く英語で知らせてほしい」

そこでKURAでは

各URAが英訳を附していたJSPS国際事業の申請書をKURAで共有
→全学で必要とする研究者に展開



当面の目標：

- ・採択率で劣らない英文申請書の作成支援
- ・研究に直接関係しないことで煩わされない環境の整備